

長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. 20）

評価主体 ヒグマ保護管理方針検討会議

1. モニタリング項目

No. 20 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査

2. 対応する評価項目

VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。

3. モニタリング手法

知床半島全域にて、ヒグマの目撃情報や出没情報、被害発生情報をアンケートや通報などにより収集。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	出没及び被害発生の状況
評価基準	出没状況：現状を上回らないこと。 被害：人身被害が発生しないこと、その他の被害は現状以下に。

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

「平成 24 年度生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業(グリーンエキスパート) 知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進事業」(環境省)
「平成 24 年度ヒグマ管理対策業務」(斜里町、羅臼町)

6. 評価

(1) 平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 悪化
<p>【目撃・出没状況】 平成 24 年度のヒグマの目撃及び対応件数は斜里町羅臼町共に前年度に比較して大幅に増加し、長期的にみても増加傾向にあり、データ収集以来最多となった。平成 24 年度が特に多かった原因は餌不足など自然要因が一因である可能性がある。</p> <p>【被害発生状況】 ヒグマによる直接の人身被害は報告されていないが、斜里町においてヒグマに接近しすぎた観光客が威嚇され驚き転倒して負傷した事例があった。両町において倉庫等への侵入、ゴミ箱、干し魚荒らし等が多く発生したが、一方で知床半島基部農地については平年並みであった。観光客や住民による餌やり、生ゴミ等の不法投棄、不適切な保管により、人身被害発生の危険性を高めている状況にある。</p>		

(2) 今後のモニタリング項目の実施について

<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
平成 24 年度は餌不足によってヒグマの出没件数が増加した特異的な年である可能性もあるが、長期的に			

増加傾向にある。ヒグマの目撃件数の年変動は環境変動の影響を強く受けることから、単年度での評価だけでなく長期的な傾向を踏まえ、引き続き両町におけるヒグマ目撃・出没状況及び被害発生状況等の情報収集と整理を行う必要がある。

7. 調査・モニタリングの概要

内容：

ヒグマ出没状況は、斜里側においては観光客などによるヒグマ目撃情報をアンケート形式で随時収集することによって把握した。羅臼側においては、国立公園区域外も含む町内全域のヒグマ出没に関する通報ルート（町役場経由、主に地元住民が目撃・通報）による情報提供が主体のため、アンケート以外にそれらも含めた。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況、および個体の特徴などを記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、鳥獣保護区管理センター、知床世界遺産センター、知床五湖フィールドハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置されている。アンケートは電話や口頭でヒグマ目撃情報を入手した場合や、偶然ヒグマを目撃した場合にも記録し、地区別に集計した。

結果：

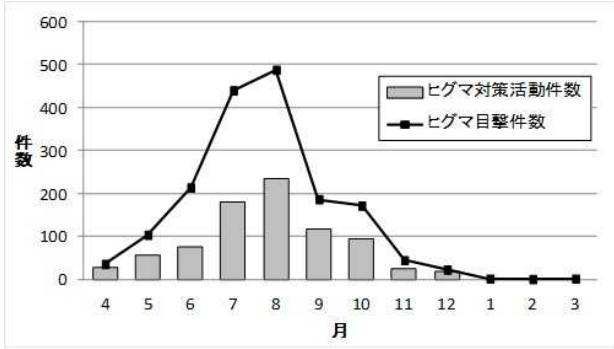
ヒグマの目撃件数は斜里町で 1,763 件、羅臼町で 387 件と前年度よりも著しく増加し、両町ともに集計開始以降で最多となった。両町における年間の目撃数は、平成 23 年度までは 7 月に最も多くなるという傾向を示したが、平成 24 年度は 8 月に最も多く 9 月まで多い状態が継続するという特徴を示した。8～9 月の目撃には、痩身に衰弱した状態のヒグマも含まれ、当年の餌環境が近年の状況と異なり、カラフトマスの遡上時期が遅く遡上数も少なかったことが一因である可能性がある。

ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で 22 頭（有害捕獲 16 頭、狩猟 6 頭）、及び羅臼町で 45 頭（全て有害捕獲）の計 67 頭であった。また、67 頭のうちメス成獣は斜里町で 8 頭、羅臼町で 16 頭であり計 24 頭であった。人為的ではない自然条件下で発見されたヒグマの死体は斜里町で 4 体、羅臼町で 2 体の計 6 頭体と近年になく多く、当年の餌環境が近年の状況と異なっていた可能性を示唆している。

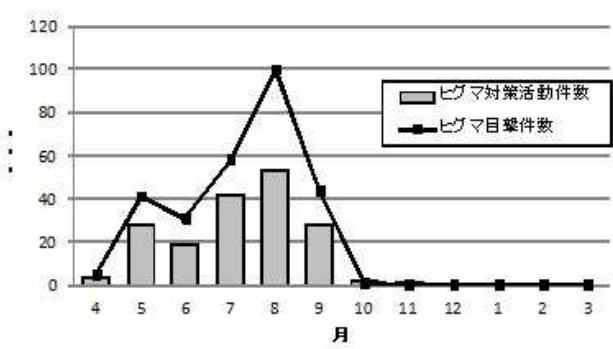
表 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ目撃件数

地区区分	月												総計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
斜里側													
幌別・岩尾別地区	34	89	105	272	395	111	141	36	7	1	0	1	1,192 (+737)
知床五湖園地地区	1	4	33	93	45	11	9	2	0	0	0	0	198 (+140)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	29	37	13	3	3	0	0	0	0	0	85 (-5)
知床連山登山道地区	0	0	5	18	19	13	1	0	0	0	0	0	56 (-4)
知床横断道地区	0	0	13	12	9	7	1	0	0	0	0	0	42 (+9)
知床岬地区	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4 (-9)
幌別川ーオベケブ川地区	0	10	27	6	5	41	16	5	15	0	0	0	125 (+75)
小計	35	103	213	439	487	186	171	44	22	1	0	1	1,702 (+943)
羅臼側													
ルサー知床岬地区	1	8	6	24	48	25	0	0	0	0	0	0	112 (+7)
湯ノ沢町ー知床岬地区	0	3	13	12	9	1	1	0	0	0	0	0	39 (+12)
羅臼市街地北側ー岬町地区	4	30	12	22	43	18	0	0	0	0	0	0	129 (+69)
小計	5	41	31	58	100	44	1	0	0	0	0	0	280 (+88)
総計	40	144	244	497	587	230	172	44	22	1	0	1	1,982 (+1,031)

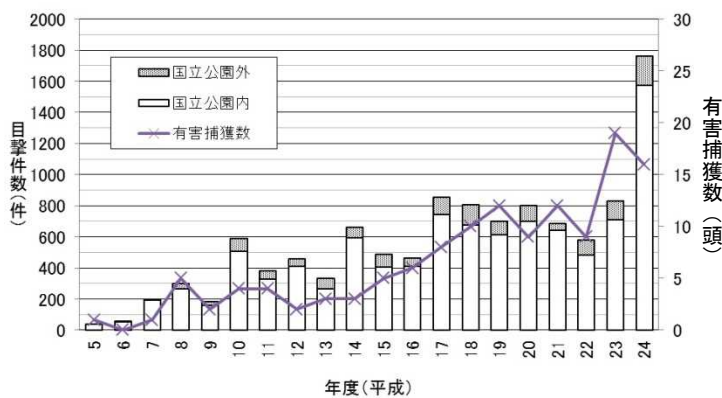
※ () 内は昨年度との比較



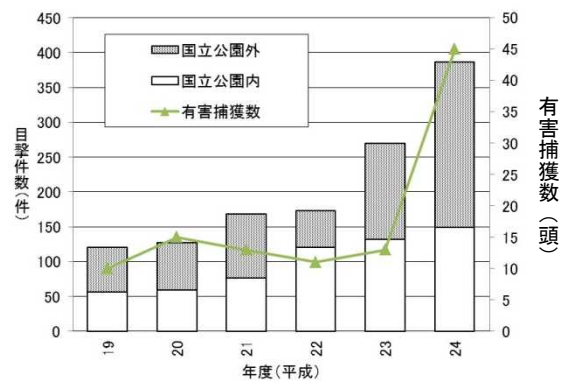
斜里側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策活動件数の月別推移
(平成24年4月～平成25年3月20日)



羅臼側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策活動件数の月別推移
(平成24年4月～平成25年3月20日)



斜里町内ヒグマ目撃件数と駆除件数の推移



羅臼町内ヒグマ目撃件数と駆除件数の推移

○斜里側

斜里町での目撃は、国立公園内 1,576 件、国立公園外 187 件であり、大部分が国立公園内であった。

国立公園内では、人の存在を気にすることなく道路沿いや観光施設周辺に出没する特定のヒグマが、利用者ごとく近距離で頻繁に目撃された。近距離での目撃に関連して、国立公園利用者がヒグマに餌を投げ与えた事例や、ヒグマに接近しすぎた観光客が威嚇され、驚き転倒して負傷したという事例等があった。また、不法投棄された生ゴミにヒグマが手を付けたという事例も確認された。さらに、宿泊施設のゴミ置き場に餌付いた特定のヒグマが日中出没を繰り返すという極めて危険な状況があった。

国立公園外では、ウトロ市街地へ複数のヒグマが出没を繰り返し、民家敷地内の魚を乾燥させるための小屋にヒグマが夜間に侵入して荒らすという事例があった。

○羅臼側

羅臼町でのヒグマ目撃は、国立公園内 152 件、国立公園外 235 件であり、平成 19 年度以降では国立公園外での目撃割合が高いという特徴を示した。公園の内外を問わず当町での目撃は、海岸沿いの住宅地周辺で多く、今年度についても倉庫や車庫への侵入があったほか、漁業者の利用が極めて多い羅臼漁港内での徘徊が発生した。また、水産加工場残渣や家庭用ゴミ箱や軒先の干し魚が荒らされるという事例が多数発生した。

長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. 22）

評価主体 科学委員会

1. モニタリング項目

No. 22 海ワシ類の越冬個体数の調査

2. 対応する評価項目

Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。

3. モニタリング手法

道路沿い、流氷上、河川沿いのワシ類の種数、個体数、成長・幼鳥の別などを記録する。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	海ワシ類の越冬環境収容力
評価基準	2600羽の越冬可能な環境収容力。（最低でも 1500）

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

海ワシ飛来状況調査（環境省）

6. 評価

（1）平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input type="checkbox"/> 悪化
ウトロ側・羅臼側ともに、オオワシの最大数や時期的変化の傾向、及びオジロワシの最大数や時期的変化の傾向に大きな変化は無く、概ね横ばいと考えられる。		

（2）今後のモニタリング項目の実施について

<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
現在の方法で継続する。			

7. 調査・モニタリングの概要

内容：

11 月から 4 月にかけて、斜里町側では知布泊～岩尾別の約 28 km、羅臼町側では湯ノ沢～羅臼川河口及び於尋麻布漁港～相泊漁港の約 35 km のそれぞれの調査区において、道路沿いや流氷上、河川沿いのワシ類の種数、個体数等を記録した。

結果：

ウトロ側

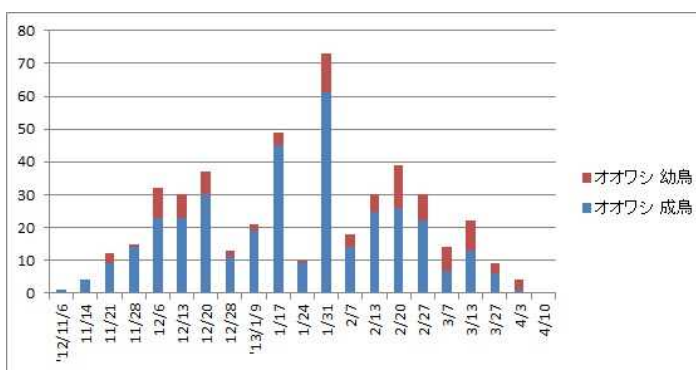
日付	オオワシ		オジロワシ		不明 海ワシ	計
	成鳥	幼鳥	成鳥	幼鳥		
'12/11/6	1	0	5	1	0	7
11/14	4	0	5	1	0	10
11/21	9	3	10	3	4	29
11/28	14	1	6	5	0	26
12/6	23	9	9	1	0	42
12/13	23	7	9	3	1	43
12/20	30	7	10	5	0	52
12/28	11	2	7	7	0	27
'13/1/9	19	2	9	1	1	32
1/17	45	4	7	2	0	58
1/24	9	1	12	0	2	24
1/31	61	12	7	3	0	83
2/7	14	4	4	3	0	25
2/13	25	5	7	3	2	42
2/20	26	13	8	3	1	51
2/27	22	8	9	1	2	42
3/7	7	7	10	6	0	30
3/13	13	9	6	1	2	31
3/27	6	3	5	2	0	16
4/3	1	3	1	3	1	9
4/10	0	0	2	3	0	5

羅臼側

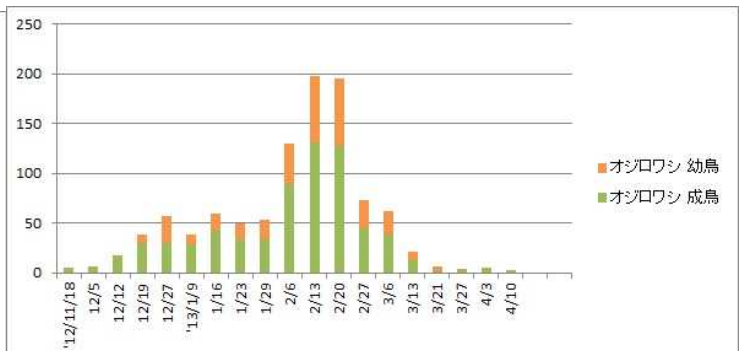
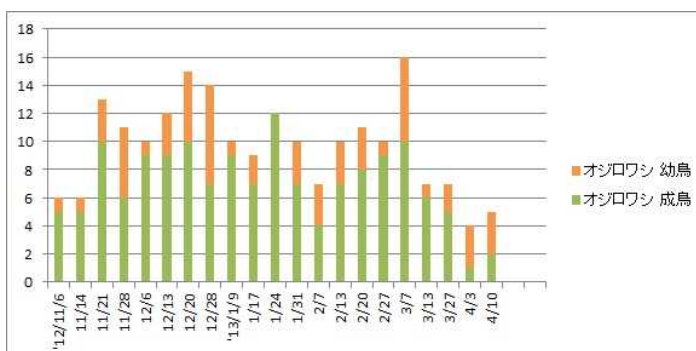
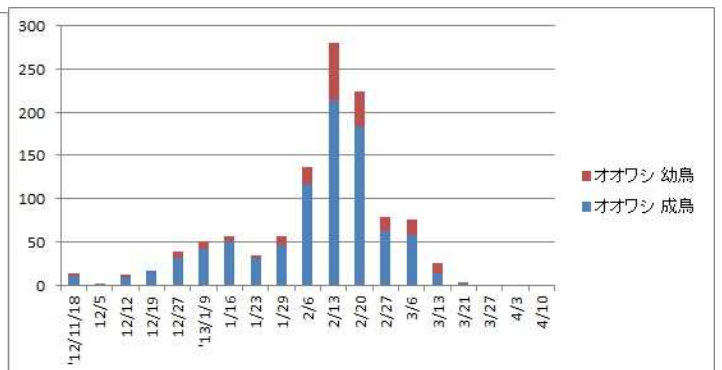
日付	オオワシ		オジロワシ		不明 海ワシ	計
	成鳥	幼鳥	成鳥	幼鳥		
'12/11/18	11	2	4	1	0	18
12/5	2	0	5	1	0	8
12/12	9	3	16	2	1	31
12/19	17	0	30	8	0	55
12/27	32	7	30	27	0	96
'13/1/9	41	9	28	10	2	90
1/16	50	7	42	18	0	117
1/23	31	3	33	16	0	83
1/29	46	10	33	20	0	109
2/6	117	20	89	41	0	267
2/13	214	66	131	67	0	478
2/20	184	40	128	67	0	419
2/27	62	17	44	29	0	152
3/6	58	18	38	24	0	138
3/13	13	12	12	9	0	46
3/21	1	1	3	3	0	8
3/27	0	0	3	1	0	4
4/3	0	0	5	0	0	5
4/10	0	0	1	1	2	4

※成鳥/幼鳥の別が不明のものは成鳥としてカウント

ウトロ側



羅臼側



長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. 24）

評価主体 科学委員会

1. モニタリング項目

No. 24 年次報告書作成による事業実施状況の把握

2. 対応する評価項目

Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。
Ⅶ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。

3. モニタリング手法

関係機関、各種団体による事業実施状況等の把握。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	関係機関、各種団体による事業実施状況
評価基準	遺産登録時の価値を低下させる事業が行われないこと。

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

平成 24 年度知床世界自然遺産地域年次報告書（環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道）

6. 評価

(1) 平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input type="checkbox"/> 悪化
-----------------------------	---	-----------------------------

知床世界自然遺産地域管理計画で定められている管理目標を達成するための事業が、関係機関等により実施された。

(2) 今後のモニタリング項目の実施について

<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	-----------------------------

7. 調査・モニタリングの概要

内容：関係行政機関等が平成 24 年度に実施した管理の実行状況を把握し、平成 24 年度知床世界自然遺産地域年次報告書にとりまとめた。

結果：平成 24 年度知床世界自然遺産地域年次報告書
Ⅴ 知床世界自然遺産地域の管理の実行状況

○管理計画目標の実行状況

知床世界自然遺産地域管理計画で定められている 67 項目の管理目標を達成するための事業が、関係機関等により計 154 件実施された。

○ハード事業

河川工作物 WG で改良が適当と判断された 5 河川 13 基の河川工作物について、全ての改良が終了した。また羅臼湖歩道の木道設置等、遺産地域の管理及び利用に資する事業が実施された。

○ソフト事業

長期モニタリング計画に基づくモニタリングが計 26 項目行われた。その他に各種調査等計 24 の事業が実施された。

長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. 25）

評価主体 科学委員会

1. モニタリング項目

No. 25 年次報告書作成による社会環境の把握

2. 対応する評価項目

Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。
Ⅶ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。

3. モニタリング手法

人口動態、産業活動などに関する各種統計の整理。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	人口動態及び産業統計
評価基準	参考資料

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

平成 24 年度知床世界自然遺産地域年次報告書（環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道）

6. 評価

（1）平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input type="checkbox"/> 悪化
人口：遺産登録時と比較すると概ね横ばいまたは微減 産業構造：遺産登録時と比較すると第一次産業従事者数の割合が微増 漁業：対象魚種の増減はあるものの、生産額では高い水準を維持 観光レクリエーション利用：遺産登録後のピーク時以降減少傾向が続いているが、平成 23 年度と比較すると緩やかな回復傾向にある		

（2）今後のモニタリング項目の実施について

<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
継続して各種統計を整理し、社会環境の把握に努める。			

7. 調査・モニタリングの概要

内容：斜里町及び羅臼町における平成 24 年度の漁業や観光レクリエーション利用状況等の各種統計を整理し、平成 24 年度知床世界自然遺産地域年次報告書としてとりまとめた。

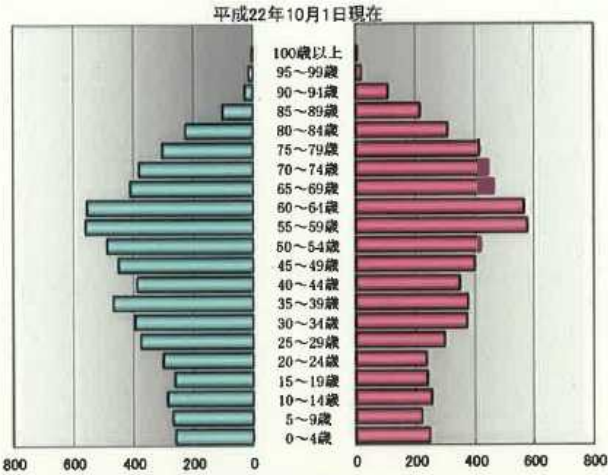
結果：平成24年度知床世界自然遺産地域年次報告書

○人口動態（付録 2. 社会環境）

○斜里町

年次	人口 (人)	各年10月1日		世帯数 (戸)	一世帯 あたり人員
		男	女		
大正9年	10,880	5,697	4,983	2,811	3.76
14	9,858	2,428	4.06
昭和5年	10,424	2,491	4.18
10	12,002	2,739	4.38
15	13,060	2,779	4.70
22	14,200	7,227	6,973	2,405	5.90
25	15,356	7,903	7,453	2,508	5.91
30	17,468	9,249	8,219	2,960	5.90
35	18,371	9,506	8,865	3,557	5.16
40	18,015	9,367	8,648	4,014	4.49
45	16,874	8,361	8,313	4,309	3.87
50	15,996	7,942	8,054	4,617	3.46
55	15,795	7,785	8,010	5,248	3.01
60	15,955	7,844	8,111	5,346	2.98
平成2年	15,182	7,393	7,789	5,202	2.92
7	14,834	7,235	7,599	5,450	2.69
12	14,066	6,986	7,080	5,636	2.50
17	13,431	6,707	6,724	5,703	2.36
22	13,045	6,517	6,528	5,759	2.27

(出典：斜里町分野別統計書平成24年4月)

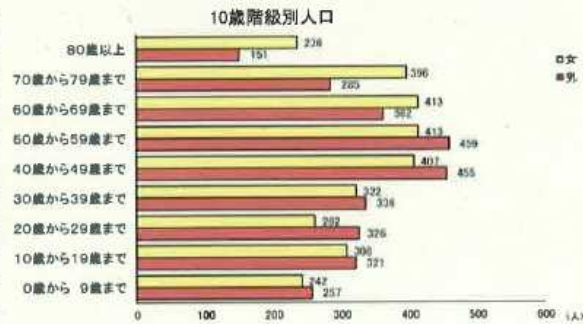


(出典：斜里町分野別統計書平成24年4月)

○羅臼町

年次	世帯数 (戸)	人口(人)			備考
		男	女	計	
昭和5年	2,804	4,480	3,819	8,299	第13回国勢調査10月1日
60年	2,568	4,227	3,838	8,065	第14回
平成2年	2,409	3,948	3,857	7,805	第15回
7年	2,254	3,717	3,754	7,471	第16回
12年	2,355	3,499	3,457	6,956	第17回
16年	2,230	3,338	3,283	6,721	住民基本台帳人口 9月末
17年	2,231	3,295	3,355	6,650	
18年	2,217	3,229	3,268	6,497	
19年	2,189	3,159	3,197	6,356	
20年	2,158	3,090	3,112	6,202	
21年	2,150	3,034	3,067	6,101	
22年	2,166	2,998	3,038	6,024	
23年	2,146	2,927	2,981	5,908	
24年	2,155	2,914	2,964	5,878	

(出典：平成24年度羅臼町資料編)



(出典：平成24年度羅臼町資料編)

○産業構造（付録 2. 社会環境）

○斜里町



(出典：斜里町分野別統計書平成24年4月)

漁業者の推移

年次	各年11月1日			
	漁業経営体 (経営体)	漁業世帯 (戸)	漁業世帯員 (人)	漁業就業者数 (人)
昭和53年	49	292	1,080	353
58	63	294	1,124	377
63	67	321	1,330	412
平成5年	100	299	1,262	392
10	99	295	1,148	380
15	67	277	956	362
20	61	-	-	420

(出典：斜里町分野別統計書平成24年4月)

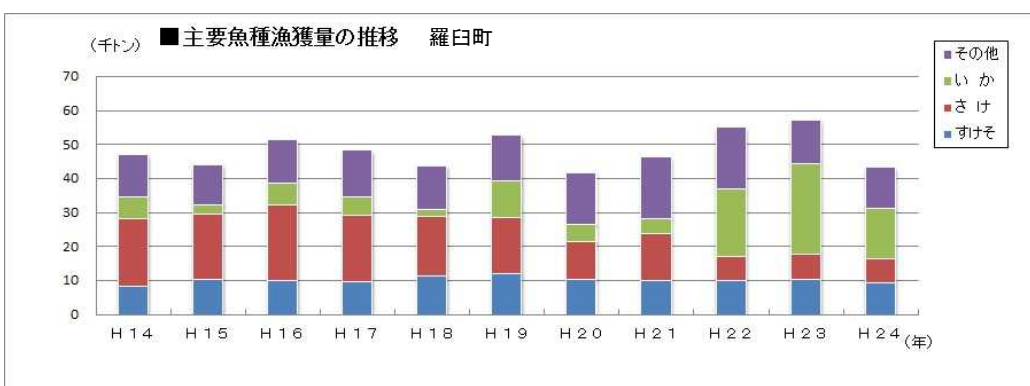
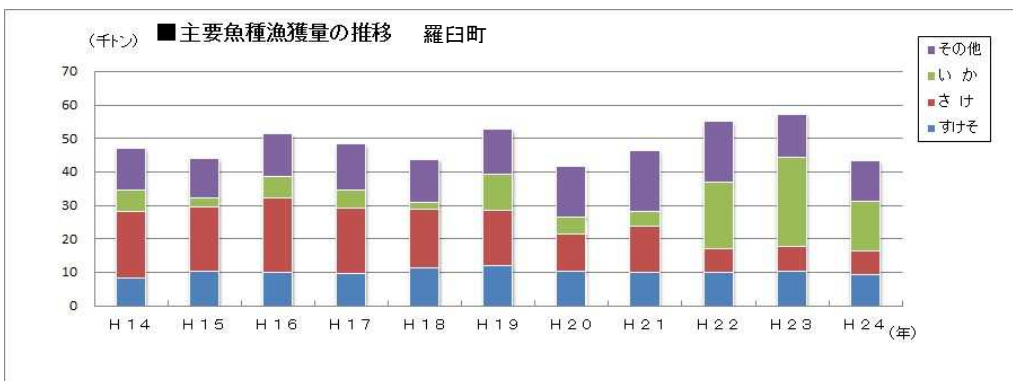
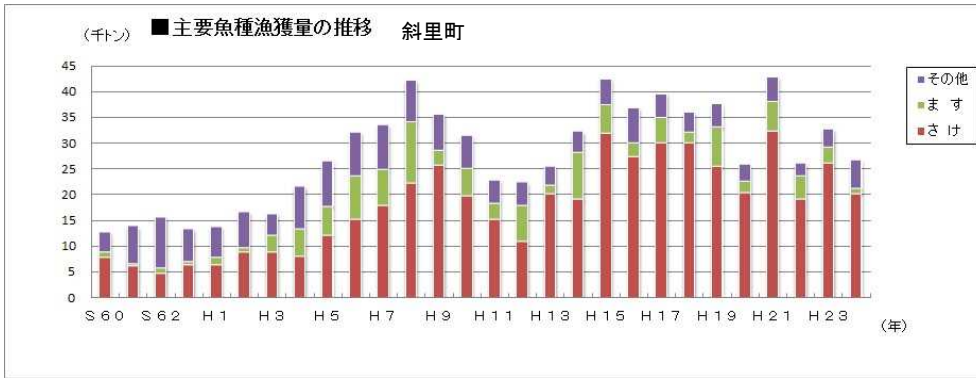
○羅臼町

産業区分	年次	平成12年			平成17年			平成22年		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数		3,999	2,408	1,591	3,732	2,210	1,522	3,404	2,048	1,356
第1次産業		1,729	1,138	594	1,553	1,044	509	1,497	1,022	475
農業		38	22	16	28	16	12	29	17	12
林業・狩猟業		3	3	0	4	4	0	7	7	0
漁業		1,688	1,110	578	1,521	1,024	497	1,461	998	463
第2次産業		778	488	292	886	379	287	891	340	251
鉱業		10	9	1	9	8	1	5	5	0
建設業		323	276	47	192	166	26	155	131	24
製造業		445	201	244	465	205	260	431	204	227
第3次産業		1,491	787	704	1,513	787	726	1,313	694	628
卸・小売業		496	207	289	574	207	367	318	141	177
金融・保険業・不動産業		46	19	27	38	21	17	38	20	18
運輸・通信業		114	91	23	99	82	17	104	84	20
電気・ガス・水道業		1	1	0	3	2	1	4	2	2
サービス業		644	311	333	614	316	298	678	289	389
公務		190	158	32	185	159	26	171	146	23
分類不詳の産業		1	0	1	0	0	0	3	3	1

(出典：平成24年度羅臼町資料編)

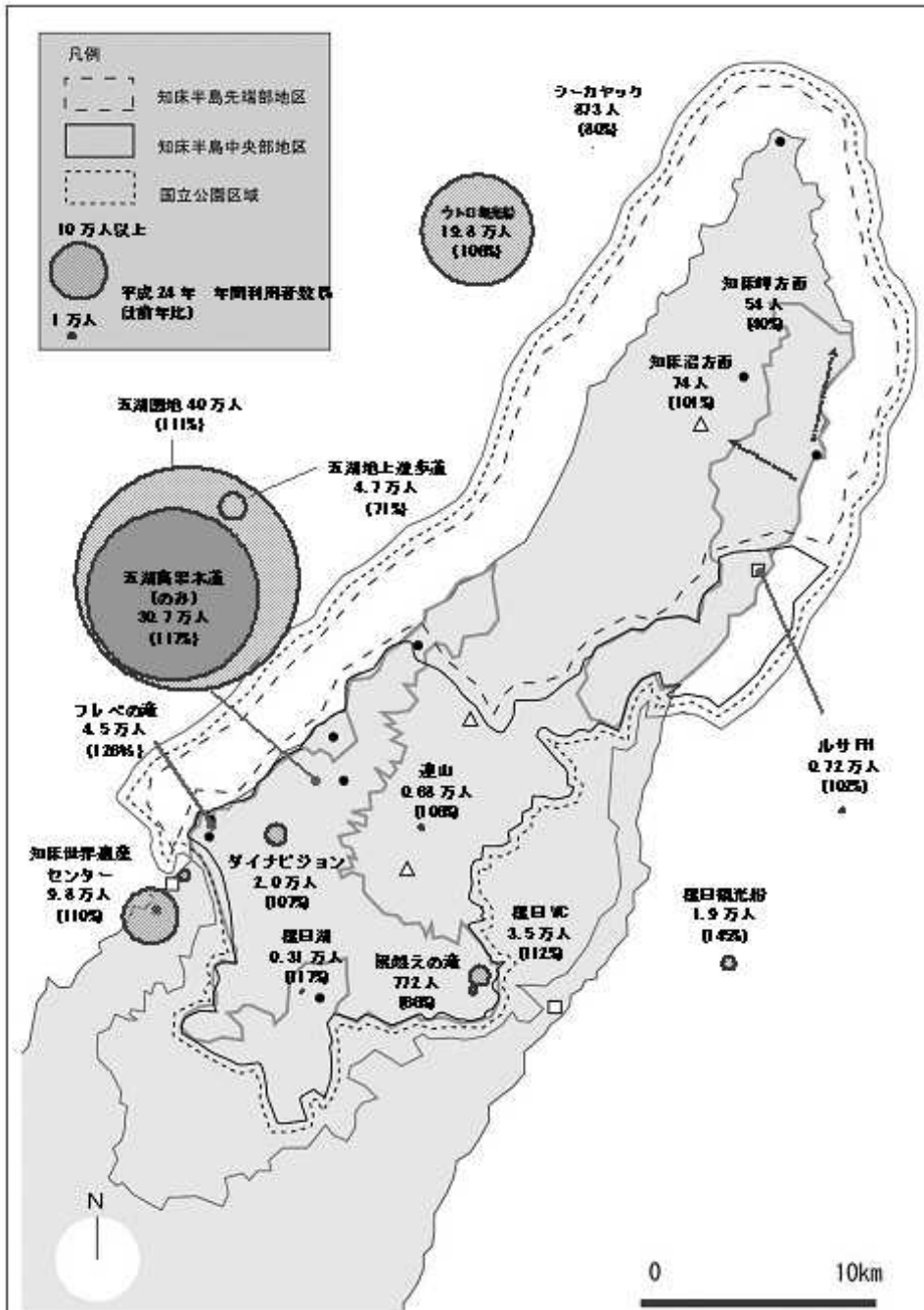
○漁業（IV 2. 漁業の状況）

平成24年度の知床地域の漁業は、対象魚種の増減はあるものの、生産額では高い水準を維持している。しかし、安定した漁業対象であったサケマス類の漁獲量に大きな変動が見られており、また根室海峡に来遊するスルメイカも、その漁獲量は秋以降の海洋環境に大きく左右されている。また、スケトウダラについてはオホーツク海全体の資源量の増加傾向があるものの、根室海峡での羅臼沿岸のスケトウダラ漁獲量には、その影響が認められていない。



○観光レクリエーション利用 (IV 1. 観光レクリエーション利用)

平成 24 年の観光客数(入り込み客数)が、遺産地域全体で約 180 万人であった。地域別に見ると、斜里町には 126 万 9 千人(前年比 107%、ピーク時の 73%)が訪れた。そのうち宿泊者数は 46 万人であり、ピーク時の 74%に減少している。また羅臼町には 53 万 3 千人(前年比 105%、ピーク時の 70%)が訪れ、平成 23 年に比較していずれも増加した。遺産登録後のピーク時(斜里町は平成 17 年の 173 万 2 千人、羅臼町は平成 18 年の 76 万人)以降減少傾向が続き、特に昨年度は東日本大震災による観光客の減少や、福島原発事故による外国人観光客の減少等の影響が見られたが、緩やかな回復傾向にあると考えられる。



長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. ⑧）

評価主体 科学委員会

1. モニタリング項目

No. ⑧ オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング

2. 対応する評価項目

- Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。
- Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。

3. モニタリング手法

オジロワシ生息地において、つがいの生息状況、繁殖活動の有無、繁殖の成否、孵化・巣立ち幼鳥数などを調査。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	つがい数、繁殖成功率、生産力（つがい当たり巣立ち幼鳥数）
評価基準	つがい数：遺産登録時つがい数 23 以上 繁殖成功率：登録時の 67%以上 生産力：遺産登録時の 0.8 以上

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

知床半島におけるオジロワシ繁殖モニタリング調査（オジロワシモニタリング調査グループ）

6. 評価

（1）平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 悪化
2012 年の繁殖成功率、生産力共に前年よりやや悪化し、評価基準を下回った。一方、繁殖つがい数は増加傾向が続いている。		

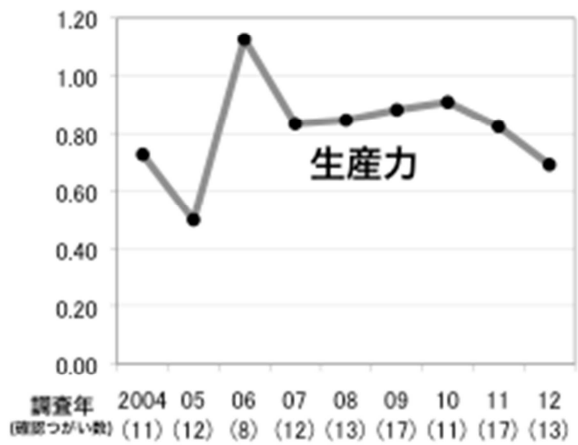
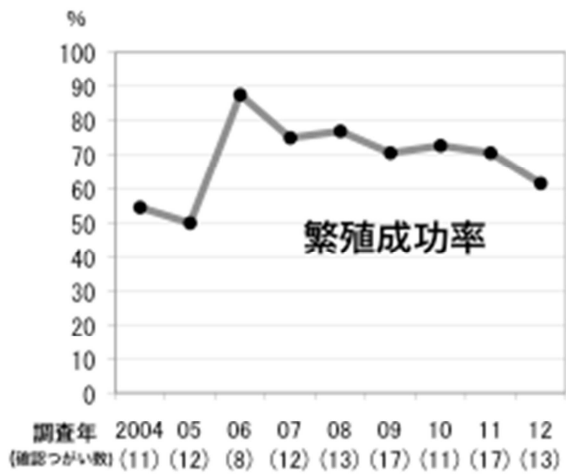
（2）今後のモニタリング項目の実施について

<input type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
繁殖推定つがい数（調査対象つがい数）に対する繁殖成否確認つがい数の割合をさらに高めるため、調査体制と調査方法の改善を検討する。			

7. 調査・モニタリングの概要

内容：知床半島エリア（斜里町。羅臼町、標津町北部）のオジロワシ繁殖つがい（推定 32 つがい）を対象に、繁殖成否や巣立ち幼鳥数、営巣地の状況等を調査。

結果:調査対象32つがいのうち、13つがいについて繁殖成功・失敗を確認。繁殖成功率61.5%、
単立幼鳥確認数9羽、生産力0.69となった。



長期モニタリング計画 モニタリング項目評価（平成 24 年度 No. ⑨）

評価主体 科学委員会

1. モニタリング項目

No. ⑨ 全道での海ワシ類の越冬個体数の調査

2. 対応する評価項目

Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。

3. モニタリング手法

各越冬地におけるオオワシとオジロワシの一斉カウント調査。

4. 評価指標及び評価基準

評価指標	海ワシ類の越冬環境収容力
評価基準	2600羽の越冬可能な環境収容力（最低でも1500）。

5. 評価項目に関わる調査・モニタリング

オオワシ・オジロワシ一斉調査（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ）

6. 評価

（1）平成 24 年度の評価

<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい	<input type="checkbox"/> 悪化
海ワシ類 2 種について、北海道越冬個体数はオオワシは漸減ないし横這い傾向、オジロワシは横這い傾向にある。越冬個体数に占める知床半島個体数の割合は調査年による変動があるが、20～30%台で推移しており、大きな変化は見られない。		

（2）今後のモニタリング項目の実施について

<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 改善継続	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 新規
越冬期の一斉カウントを毎年 1 回（2 月下旬）に継続実施し、越冬ピーク時の個体数変動を把握。加えて 3 年毎を目途に越冬期間を通じた個体数カウント調査を実施し、期間中の個体数変化、道内の越冬分布変化を把握する。			

7. 調査・モニタリングの概要

内容：北海道内越冬地及び岩手県等本州越冬地におけるオオワシ、オジロワシ個体数の一斉カウントを 2013 年 2 月 17 日に 172 調査区で実施。北海道内は 144 調査区、うち知床半島は 19 調査区で実施。

結果：ワシ類の総記録個体数は 1,913 羽（オオワシ 1,103 羽、オジロワシ 810 羽）、うち、北海道総個体数は 1,893 羽（オオワシ 1,093 羽、オジロワシ 800 羽）。知床半島個体数は 489 羽（オオワシ 318 羽、オジロワシ 171 羽）で、北海道内越冬個体数に占める知床半島の割合は、オオワシ 29%、オジロワシ 21%、2 種合計では 26% となった。